

心肺蘇生法を学習して

平成25年7月17日 射水市立大門中学校 保健室発行

去る7月11日(木)、射水消防署、射水市医師会の医師や看護師の方々12名を講師に招いて、2年生を対象に「心肺蘇生法実技講習会」を行いました。心肺蘇生練習人形とAEDを使用して救急車が来るまでの応急手当の手順を学びました。実習後の感想の中から一部を紹介します。



僕はこれから、こういう場面に出くわすかもしれません。その時に、素早く丁寧に救助するためにも、この経験を心に刻んでおこうと思います。絶対に人を見捨てたりしないと思いました。

まず、大きな声で意識を確認するところが印象に残りました。一人では救えないので、他の人に助けを求めることが分かりました。今日はとてもよい経験になりました。

もしかしたら自分になるかもしれないので、自分も含め、みんなに身に付けてほしいことだと思いました。とにかく大きな声を出して周囲の人を引きつけることが大事だと思いました。

いつ、どこで、何が起こるか分からないから、きっちりと覚えておきたいです。救急車が来るまでに自分がやるべきことをやりたいと思います。

AEDという電気ショックを出す機器を、私たちも普通に使ってよいなと思いました。人がもし倒れていたら、あせらず近くの人に声をかけたいと思いました。

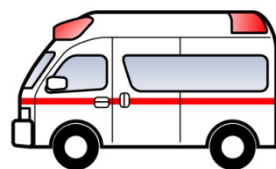
今日の活動では、いざという時に大切なことをたくさん学びました。もし何かあったら、習ったことを生かして自分から率先して人を助けられるようになりたいです。

私たちのような中学生でもかけがえのない命を助けられるんだと思うとすごいなと思いました。

もし、このようなことがあったら、冷静に判断し、心肺蘇生法を行いたいと思います。

これから夏休みに入り、暑い中での部活動や、友達と外で遊ぶことが多くなると思います。もし、誰かが倒れている場面にいたら、今日習ったことを発揮してその人の力に少しでもなれるようがんばりたいです。

少し恥ずかしさもあったけど、もしもの時にそんな感情をもっていては人を助けることができません。人の目や恥ずかしさを捨てることをしなければ、人の命を助けることができず、一生後悔するようなことになると思いました。



今まで心肺蘇生法については何も考えたことがなかったけれど、今回の講習会で深く考えることができました。難しかったけれどがんばりました。

人の命をつなぐために、いつでもできるよう心がけたいです。

手本を見せてもらった時、できそうだなと思いました。だけど実際やってみたら、何をすればいいのか分からなくて混乱していました。先生のアドバイスで、なんとか進みました。もし本当に僕の前で人が倒れたら、今日より混乱して頭がからっぽの状態になると思いました。必要なのは冷静な判断だと思いました。

心肺蘇生法を実際にやってみると、思ったより簡単でした。でも、本当に誰かが倒れた時にやるのは勇気がいるし難しいと思いました。身の回りで起こった時は、今日教わったことをもとに冷静にがんばりたいと思います

命を救うには、1分、1秒でも大切だということにびっくりしました。人工呼吸の体験はとても貴重だったと思います。マネキンだったけど、全力でやりました。命を助けるには、助けたいと思う気持ちが大事だと思いました。



印象に残ったことは、倒れている人に近よる前に周囲の状況を確認したことです。倒れている人がいたら、「助けなきゃ」と思ってすぐに近づいてしまうと思うので、周囲まで気がいかないような気がします。どんなにあせていても、緊急の時には冷静に行動できるようにしたいです。

自分が早く動くことで、人の命が助かるかもしれないので、もしこういうことがあったら、もたもたせずにやれたらいいなと思いました。



少しの間で命が助かること、助からないことがあると知りました。後悔しないよう全力で取り組もうと思いました。

知らない人でも、命が危ない時はみんなで協力して救助すべきだと思います。このような場面はあまりないと思うけれど、一人一人が知っているると多くの人の命が助かると思います。

最初のお話で、何か起こった後の対処方法を知っておくことも大切だけど、危険を事前に防ぐことも大切だと思いました。

特に夏は気温も高く、危険につながる人が多いので、気を付けて行動していきたいです。